



Taiwan Representative Office

## 台北駐在員報告



# 台湾における日本産食品の市場について

### はじめに

日本政府は「食料・農業・農村基本計画」(令和2年3月閣議決定)の中で、海外への農林水産物・食品の輸出額を2025年に2兆円、2030年には5兆円を達成するという目標を掲げています。政府主導による輸出環境の整備やプロモーション促進に関する取組を行ってきた結果、2022年には10年連続で過去最高額を更新する1・4兆円の輸出額を達成しています。【図1】

### 台湾における日本産食品のニーズ

2022年の台湾向けの農林水産物・食品の輸出額は、1,489億円と全体の約1割を占めており輸出先としては第3位ですが、第1位の中国の人口が約14億人、第2位の米国の人口が約3億人であるのに対し、台湾の人口は約2,300万人であることを加

味すると台湾における日本産食品のニーズの高さが窺えます。実際、台湾向けの輸出額については、コロナ禍で日本との往来ができなかったことなどを背景に、直近5年で約1・6倍と大きく増加しています。【図2】

台湾は親日として知られており、日本への安心感や信頼度が非常に高いため日本産品は受け入れられやすく他国産の商品と比較して優位性がありますが、一方で台湾には既に数多くの日本産品が流通しており、いかに類似品との差別化を図れるかという点が最も重要になります。商品の特徴、製造方法や価格以外にも、消費者は日本の流行にも敏感であることから、メディアでの掲載や受賞歴の有無、台湾未上陸の商品であるかなどを現地バイヤーは重視する傾向があります。最近では健康志向や環境意識の高まりを背景に、低カロリー、ヘルシー、オーガニック(有機)などの商品が注目されています。また、

図2 日本の農林水産物・食品輸出額推移(国・地域別上位5カ国)

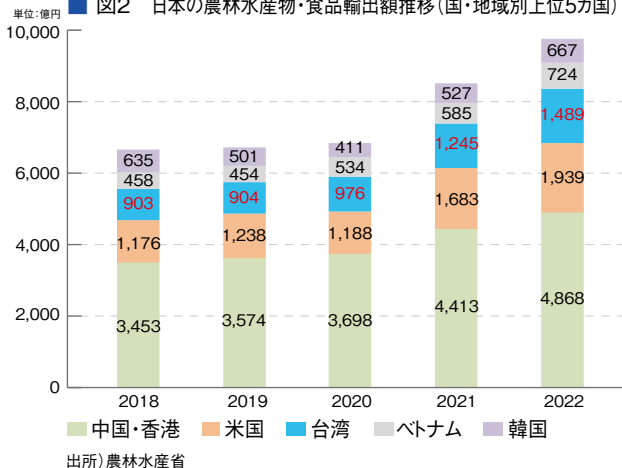


図1 日本の農林水産物・食品輸出額推移

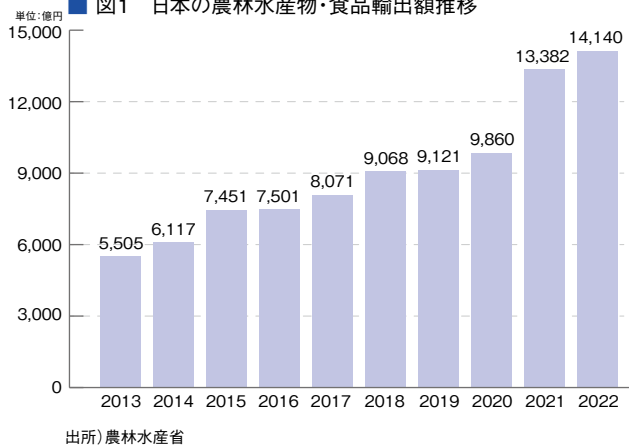




図3 台湾の小売店に陳列されている日本産のリキュール類



図4 日本と台湾の原材料表示の違い

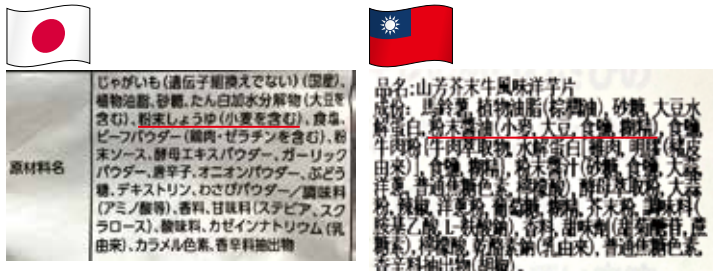


図5 日本と台湾の栄養成分表示の違い

日本		台湾	
栄養成分表示:1袋(40g)当たり		營養標示 每一份量40公克 本包裝含1份	
① エネルギー	124kcal	① 熱量	124大卡
② たんぱく質	1.6g	② 蛋白質	1.6公克
③ 脂質	0.2g	③ 脂肪	0.2公克
④ 炭水化物	31.2g	④ 飽和脂肪	0公克
⑤ 食塩相当量	0.03g	⑤ 反式脂肪	0公克
		⑥ 碳水化合物	31.2公克
		⑦ 糖	28.4公克
		⑧ 鈉	12毫克

### 台湾の食品に関する規制

台湾の若者には梅酒や果実酒などのリキュール類のお酒が人気となっているようで、現地小売店では多数の日本産のリキュール商品が陳列されています。【図3】

台湾は食品に関する輸入規制

が厳しいと言われていた。例えば台湾も日本と同じように残留農薬の基準値が設定されていますが、日本以上に輸入検査の基準値が厳しく設定されており、検査で不合格となった商品は全て積み戻しとなるか廃棄となるため、特に青果物などを輸出する場合には注意が必要です。

また、加工品などの包装食品については、中国語ラベルの貼付が必要であり、その中でも「原材料表示」は一次原料と二次原料を共に明記する必要があります。具体的には原材料に粉末醤油が入っている場合は、粉末醤油(小麦、大豆、食塩)など細かく明記する必要があります【図4】、台湾で

### 【図5】

認められていない原材料が使用されている場合は輸出できません。また、「栄養成分表示」については、日本で義務付けられている項目をさらに細分化されたものを明記する必要があります。

### さいごに

台湾は親日で食文化も日本と似ており、九州とは地理的にも近いことから、食品の海外輸出を検討する際の有力な候補の一つであると思います。福岡銀行の海外駐在員事務所では、海外向けの販路開拓や仕入先開拓に関する現地企業とのビジネスマッチング等のご相談を承っておりますので、ご興味がある方は、最寄りの店舗へお気軽にご相談下さい。

2023年7月7日現在  
(台北駐在員事務所  
所長 大山 一平)